

《 現在の宝塚市クリーンセンターについて 》

■クリーンセンターでの環境保全の取り組み

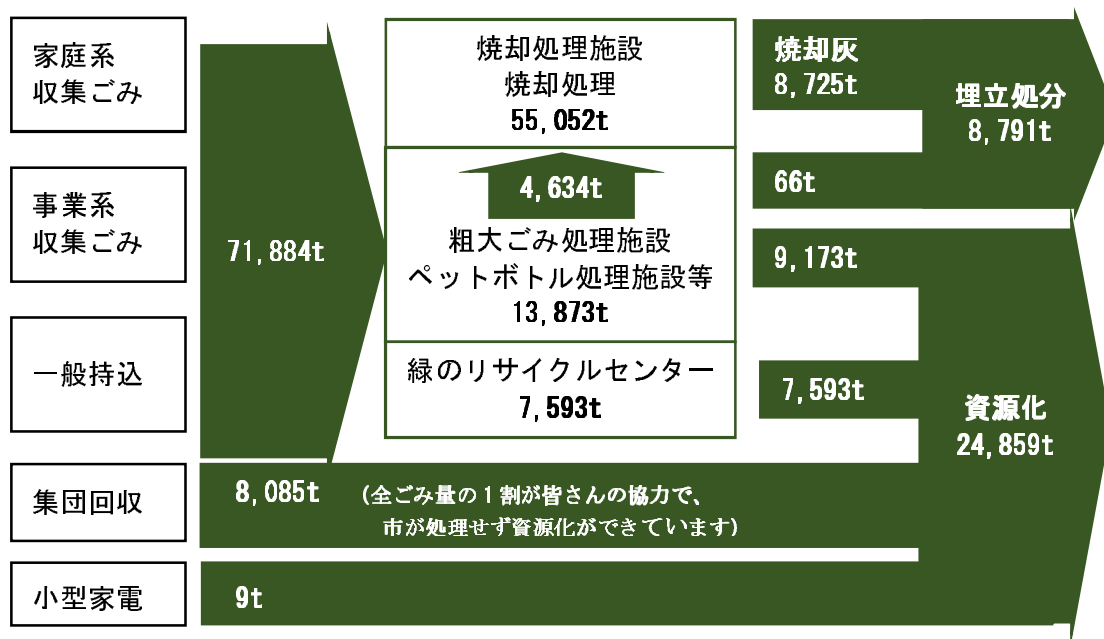
- 宝塚市クリーンセンターは、武庫川をはさんで市役所の対岸にあり、住宅地の中にあるごみ処理施設として、外壁をタイル張りにし周辺環境に配慮した建物にするとともに、厳しい環境基準を設定し、時代に沿った基準を維持するために大規模改修や定期補修を行い、環境保全に努めています。

※ 近年のごみ処理施設は、外見も周辺の景観にさらに調和させ、安定した稼働ができ、臭いや公害を出さず災害に強く、子どもたちの環境学習や市民に親しまれる施設になっています。



■宝塚市のごみ処理・処分量及び資源化量について（平成 26 年度実績）

- 宝塚市では、年間 71,884t のごみを宝塚市クリーンセンター及び緑のリサイクルセンターで処理しています。粗大ごみ処理施設・ペットボトル処理施設等では資源化可能なものを選別していますが、残渣として発生した可燃物は焼却施設で処理しています。
- 焼却灰及び不燃残渣を合わせた年間 8,791t を大阪湾臨海環境整備センター（フェニックス）に搬入し、埋立処分しています。
- 粗大ごみ処理施設・ペットボトル処理施設等からの資源化物、緑のリサイクルセンターからの木質チップ、集団回収を合わせた年間 24,859t を資源化しています。資源化率は、31.1%となっており、平成 25 年度の全国の資源化率 20.6%と比較しても非常に高い値を達成しています。

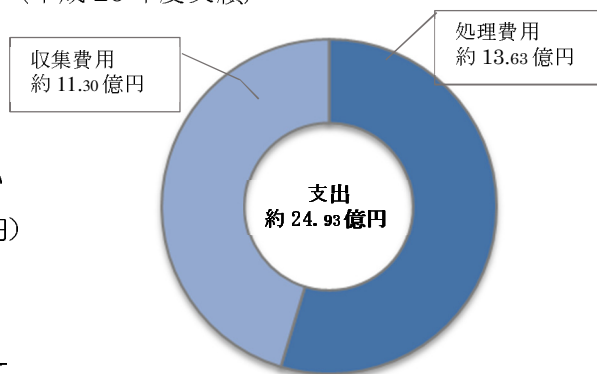


$$\text{資源化率} = 24,859 \text{ t} \div (71,884 \text{ t} + 8,085 \text{ t} + 9 \text{ t}) = 31.1\%$$

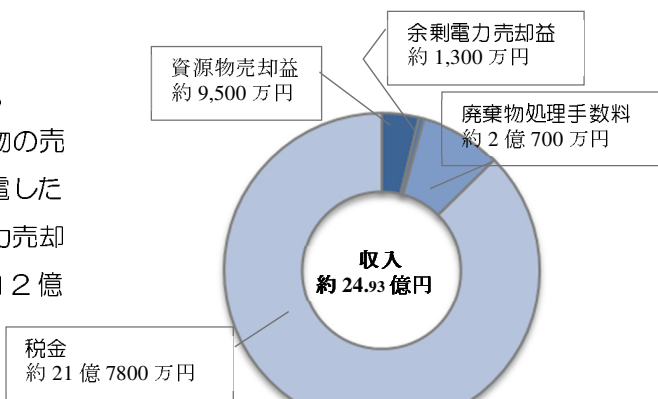
※ごみ焼却量には、し尿処理施設でごみとして除去したし渣が含まれていません。

■宝塚市のごみ処理事業に係る費用について（平成26年度実績）

- 支出は、年間約24億9,300万円かかっています。
現在の施設は、収集効率の良い市街地の中心に位置していますが、それでも収集運搬業務にかかる費用は、全体の約45%（約11億3,000万円）となっています。
クリーンセンターでの処理業務にかかる費用は全体の約55%（約13億6,300万円）となっています。



- 事業収入は、年間約3億1,500万円です。
分別収集したごみを選別し、得られた資源物の売却益が約9,500万円、ごみ焼却施設で発電した電力のうち、施設で消費したあとの余剰電力売却益が約1,300万円、廃棄物処理手数料が約2億700万円です。



- 支出と事業収入の差額、約21億7,800万円が税金で賄われており、ごみ処理には多くの費用がかかっています。現在、ごみは10分別で収集し、経費等をかけてできる限り資源化しています。新ごみ処理施設ではリサイクルと経費のバランスをどうとるのか、資源物の利用方法も含めて、効率のよい、費用対効果の高い設備や処理方法を、検討していく必要があります。

■新ごみ処理施設の整備に係る費用について

- ごみ処理施設の整備は、施設の種類や規模によっても異なりますが、数百億円が必要です。
※ 近年の事例では、宝塚市と同程度の計画規模（1日あたり約200tのごみ処理能力）である寝屋川市のごみ焼却施設が約113億円（税抜き）でした。
宝塚市の場合、その他にマテリアルリサイクル推進施設*も整備する必要があります。
それに加え、建設場所によっては、用地取得費、敷地造成費、インフラ整備費などが必要となります。

*マテリアルリサイクル推進施設… 粗大ごみや不燃ごみの破碎・選別や、資源ごみの保管・選別などを行う施設。

■新ごみ処理施設の熱エネルギーの有効利用について

- 近年のごみ焼却施設は、ごみ処理過程で副次的に発生するエネルギーを最大限回収し、ごみ発電や温水利用するエネルギー回収推進施設となっており、売電は大きな収入源となっています。
リサイクルは、収集した資源物を再資源化するマテリアルリサイクルだけでなく、ごみを燃やし、その際に発生する熱をエネルギーとして利用するサーマルリサイクルという考え方もあります。